

令和5年度 日上市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日上市立諏訪小学校 教諭 鈴木 邦洋

1 派遣期日 令和5年11月10日（金）

2 派遣先 大会名 第56回全国中学校社会科教育研究大会 栃木大会
会場名 ライトキューブ宇都宮
所在地 栃木県宇都宮市宮みらい1-20

3 研修内容

大会主題	社会を見つめ、社会と関わる力を育む社会科学習の創造
------	---------------------------

(1) 分野別提案（地理的分野）

① 視点1：批判的思考の育成

「地域をよりよくしていくためにはどうしたらよいか」という課題を追求する過程で、様々な情報を批判的に捉えながら地域的特色を正しく理解するとともに、その地域にある諸課題を見出す力や、その地理的事象に関する自分の考えをまとめ伝える力を育む。

② 視点2：批判的思考態度の育成

心的距離の近い教材を活用し、自分事として考えを深めさせる。ICTを活用することで、効率よく考えを伝え合うことができるようにする。ゆさぶりをかけることで既得の知識を問い直し、多面的・多角的に考察することができるようにする。

(2) 公開授業Ⅰ 栃木市立栃木南中学校 「アジア州」

① 本時の題目 アジア州～東南アジアを例にアジア州の特色をまとめよう～

② 本時の目標 東南アジアに外国企業が進出する理由を自分の言葉で表現する。

③ 展開の要旨

- ・東南アジアに工場を設置する利点を資料から読み取り、考察する。（個人→グループ）
- ・工場の立地条件を考察する。（グループ）
- ・東南アジアに外国企業が進出する理由を考察する。（グループ）

(3) 公開授業Ⅱ 佐野市立南中学校 「関東地方」

① 本時の題目 話を合を通して関東地方についての考えを深めよう

② 本時の目標 東京への一極集中が続く関東地方を持続可能な地域にしていくにはどうしたらよいか考え、まとめる。

③ 展開の要旨

- ・前時までに各グループが考えたプランを発表し合う。（屋台村方式）
- ・関東地方が持続可能な地域になるためのプランを再考する。（グループ）

(4) 研究協議Ⅰ・Ⅱ、指導助言

① 研究協議での主な意見（公開授業Ⅱの研究協議に参加）

- ・各グループが考えたプランの視点（産業・交通など）がバラバラだったため、関東地方の特色をまとめる視点を1つにしぼった方が良かったのではないか。
- ・「関東地方が持続可能な地域になる」とは、どうなったら持続可能と言えるのかのイメージが子どもたちに共有できていたのか。
- ・日本の諸地域のまとめの学習として、本単元を扱っていたので、視点を定めないことで生徒の多面的・多角的な思考を導くことができたと思う。

② 指導助言 宇都宮大学共同教育学部 松村 啓子 教授

- ・関東地方は東京を中心として、周辺地域は機能地域として存在している。したがって、東京と周辺地域が共に持続可能な生活を導くためにどうすべきかを考えることが重要である。
- ・想像力を働かせて、その地域に住む人々の思いや願いを考えることが重要である。

(5) 研究発表 北海道札幌市立札幌開成中等教育学校 結城 拓 教諭

① 研究主題 『未来を創る社会科教育』

よりよい社会を実現する資質・能力を育む社会科学習
～個別最適の学びと協働での学びによる質の高い学びを通して～

② 研究の概要

- ・東北地方の学習で、「防災（減災）と地域の産業の活性化を両立させ、持続可能なまちづくりを実現するには、どうしたら良いだろうか」という単元を貫く問いを設定した。
- ・A:防災（減災）、B:水産業の活性化、C:観光業の活性化、D:伝統や文化の継承、E:暮らしの再建、の5つの「学びの視点」を設定し、生徒が探究したいと思う分野の課題を選択した。（個別最適の学び）
- ・それぞれの視点で得た知識や課題の解決方法について、生徒同士が話し合い、課題の解決に向かった。（協働での質の高い学び）

(6) 講師講評 文部科学省初等中等教育局教育課程課 中嶋 則夫 教科調査官

- ・「令和の日本型教育」＝「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学び」
- ・学習指導要領の着実な実施＝地理的分野の目標を、全ての生徒に実現させる
- ・地理的分野における「持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養」
- ・地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動の充実

4 感想

今回、令和6年度関中社茨城大会に向けた授業づくりにおける研究推進委員として本大会に参加した。今後の授業づくりに生かしたいと感じたことを、以下にまとめる。

(1) 研究主題を実現するための単元計画の構築と実践

問いの構造図を用いて、全ての時間の問いが単元を貫く問いに結びつく構造となっていた。綿密に考えられた問いに対して、調べたり話し合ったりしながら課題解決を繰り返していくことで、地域的特色を正しく理解し、その地理的事象に関する自分の考えをまとめることができていると感じた。

(2) 一人一人の生徒が目標を確実に達成するための手立ての工夫

アジア州の授業では、東南アジアに工場を置く利点について考える際、多面的・多角的な視点から考えが生まれるよう、複数の厳選した資料を配付していた。関東地方の授業では、日本の諸地域の全ての単元で、同じ単元計画の流れで授業を進めていったことで、本単元でのまとめがどのグループもしっかりとできていた。どちらの授業も、生徒同士の意見の交流の場を設定し、様々な意見を取り入れながら協働して課題を解決していくという流れが、とても参考になった。全体での共有場面では、教師がゆさぶりの発問を投げかけたり、考えの根拠を問い直したりすることで、生徒の考えをさらに深めていた。事前にそのような場面をしっかりと想定しておくことが大切だと感じた。

(3) 公開授業の在り方

公開された授業はどちらも、生徒たちの話し合い活動が主体の授業であったが、YouTubeでの配信の関係で、近くに行って生徒の声を聞くことができなかった。そのため、生徒がどのような思考をしたのかが捉えられず、もどかしさを感じた。また、ICTの活用も、タブレットを相手に見せながら発表するという形式であったので、生徒同士が何らかの方法で共有することができれば良かったと感じた。